

H25年 9月 18日

血

液

内

科

だ

よ

い

同種造血幹細胞移植患者様のインフルエンザ対策

インフルエンザは

主に咳、くしゃみ、唾液などの飛沫感染（直接唾液などが飛んでくること）で感染します。くしゃみなどで飛んでくる距離は2メートルと言われています。

予防するには

インフルエンザに罹患した人との接触はしないようにしましょう。

流行時の人ごみはなるべく避けましょう。

外出時はマスクをつけて、帰宅後は石けんで手洗いをして、うがいをすることが大切です。



もし、ご家族の方がインフルエンザにかかった場合は

同じお部屋での食事や就寝は避けたほうがいいです。タオルは別にして、ドアノブなど共有部分は、毎日拭き掃除をしましょう。

インフルエンザワクチンについて

移植後の患者様は、免疫抑制剤や GVHD などにより、ワクチンの効果は低下すると考えられます。移植後6ヶ月以上経過し免疫抑制剤の使用が少なく GVHD も安定している、そして体調に問題がなければワクチンの接種をすることができますので主治医にご相談ください。

可能ならば、ご家族のワクチン接種をお勧めします。

移植後は、免疫力が低下していますので、インフルエンザや風邪なども治りにくく、悪化することがあります。気になる症状が出現したら早めの受診をお勧めします。ご不明な点がありましたら、いつでもご相談ください。



がん化学療法看護認定看護師，移植担当看護師 横田宜子